

皆さんの声をお聞きします

町長との懇談の日

ボランティアの受け入れ

◎ 広野町でボランティアをしたいという引き合いがいくつかあり、パークフェスなど二ッ沼総合公園

◎ パークギャラリーに机、いす、パネルを常設できないか？また、年配者、若者の健康増進を目的にハウスなどの施設を利用できるように変えられないか？

◎ 今後の取り組み課題として、二ッ沼総合公園をどのように運営していくか、春夏秋冬を通したパークギャラリーのプログラムをどのように作っていくか、合宿用の建物をどのように整備していくか、じっくりと検討していきます。また、今後の同公園の全体像を作り上げていくうえで、株式会社広野町振興公社と連携しながら、取り組んでいきます。

5月11日(月)開催分から、質問が集中した項目や皆さんの生活に直接関わる項目を抜粋して掲載します。

二ッ沼総合公園

◎ パークギャラリーに机、いす、パネルを常設できないか？また、年配者、若者の健康増進を目的にハウスなどの施設を利用できるように変えられないか？

◎ グランドオープンにこぎつけるまでは、原状復旧をするのに全力を尽くしてきました。今後は宿泊棟などの再整備も検討していきます。アでおいでいただく団体にも、利用しやすい施設にしていくつもりです。ボランティアの受け入れ体制では、町民と町が手を携えてボランティアを受け入れる事業スキームを作っていけるよう取り組んでいきます。

これまでの参加者数など

回数	開催日	組数	人数
1	2月10日(火)	6組	7人
2	3月16日(月)	4組	5人
3	4月10日(金)	4組	5人
4	5月11日(月)	2組	5人
5	6月12日(金)	3組	3人

今後の日程など

- 日時 7月14日(火) 午後3時～5時
(公務の都合により、広報ひろの6月号に掲載した日時を変更しました)
- 時間 1人(1団体) 約20分間(先着順)
- 場所 広野町役場 2階 応接室
- 対象 広野町民
- 申し込み方法 実施日の2日前までに下の問い合わせ先に電話してください。

*開催日時は予定であり、町長の公務の都合によって開催日や時間帯を変更することがあります。変更があった場合、申し込みをした人には電話でお伝えしますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。

問 総務課 秘書広報係 ☎0240-27-2111



広野町職員(高校卒程度)を募集します

■採用予定日 平成28年4月1日 ■職種・採用予定人員 一般事務 1人程度 土木 1人程度 ■受験資格 平成6年4月2日から平成10年4月1日までに生まれた人。学歴不問。(欠格事由は募集要項で確認のこと) ■試験方法: 第1次試験は①教養試験(筆記)、②専門試験(筆記。土木のみ)と③事務適性検査、一般性格診断検査、職場適応性検査、第2次試験は個別面接と作文 ■第1次試験の日時・場所: 平成27年9月20日(日) / 杉妻会館(福島市杉妻町3番45号) ■申し込み方法: 申込書を平成27年7月15日(水)から8月14日(金)までに郵送(8月14日午後5時までに受領したもの)または直接(開庁日時内)広野町総務課庶務係(〒979-0402福島県双葉郡広野町大字下北迫字苗代替35番地・☎0240-27-2111)へ。試験要項と申込書は本町総務課が郵送請求(120円切手をはった返信用封筒(角型2号)同封)で入手可能。

問 総務課 庶務係 ☎0240-27-2111

ぜひ私たちと一緒に復興の仕事を!

環境防災課 ^{よこた ゆうや} 横田 侑哉 (平成27年度採用)

私は福島第一原子力発電所のある大熊町の町民で、高校生のときに東日本大震災が起こり、家族と共に避難先を転々しました。通っていた高校も避難指示区域に入ったため、やむを得ずいわき市内の高校に転校しました。自宅は帰還困難区域にあります。震災直後の避難所生活でお世話になった自治体の消防団員や職員の働きを見て、自分も復興の仕事に携わりたいと思っていました。少しでも古里の近くで復興の仕事をしたいと思っていたので、専門学校卒業時に、役場が元の庁舎に戻っていた広野町の採用試験を受けました。



面接で配属先の希望を問われたとき、防災体制の強化が町民の早期帰還につながると考えていたため、町民の安全を守る配属先を志望しました。配属されたのは防災や防犯を所管する環境防災課で、主に消防の事務を担当しています。私と同じ志を持ち、より良い広野町にしたいと思う人たちの応募を、期待しています。

税務課 ^{わたなべ みなみ} 渡辺 南 (平成27年度採用)

私は広野町の出身です。東日本大震災が起こったとき、私は高等専門学校で4年生でした。高専卒業後、化学の勉強を続けたくて県外の大学に編入しましたが、将来、古里の復興に関わる仕事に就きたかったので、卒業後は地元に戻ってくるつもりで進学しました。



大学では理系を専攻したため、仕事は今まで関わったことがないことの連続で、毎日が勉強です。ましてや、私が配属された税務課の仕事は、難しい制度が折り重なるように適用される事例が多く、上席者や先輩職員から教わることもばかりです。でも、人と接することが苦ではないので、この仕事を選んでよかったと思っています。新人かベテランかは町民の方々から見れば関係のないことなので、来客に窓口で声をかけてもらえると、町職員として認められているような気がして、うれしく感じます。

広野町は、日常業務と復興業務を並行して行っているのですが、業務量は多いし、復興は簡単にはできません。強い意志を持つ人が応募してくれて、一緒に働いてくれたらうれしいです。

町民保健課 ^{いぬづか あいこ} 犬塚 愛子 (平成27年度採用)

私は広野町で生まれ育ちました。東日本大震災が発生したのは、双葉町にある高校の卒業式を終えて間もなくのことでした。平成23年3月11日、母校で下級生に最後の剣道の指導をしているときに、地震が起こりました。翌日の12日に進学先の首都圏に移り住む予定だったので、当初、動揺しましたが、何とか大学の入学式には間に合いました。



大学卒業後の進路として、帰省の折に参加した復興イベントで、町の職員が復興に取り組む姿勢を垣間見たことと、いつも町のホームページで復興していく様子を見ていたことで、広野町の採用試験を受けることを決めました。

配属された町民保健課で担当している国民健康保険の事務は、制度が難しく大変なこともあります。直接町民と接する仕事であり、やりがいを感じています。

人のために何かしたいと思う人が仲間になってくれたら心強いので、そういう人の応募を望みます。

産業振興課 ^{いがり のぶひこ} 猪狩 伸彦 (平成26年度採用)

私は広野町の出身で、東日本大震災が発生したときは県外の大学3年生で、空手部の合宿中に被災しました。広野町にいた両親とは連絡が取れず、自宅の辺りは大半の家屋が津波で流されたことを知りました。約1か月後、携帯電話に親からのメールが着信し、ほっと胸をなでおろしました。



震災直後の経験もあって、町に戻るには自然の成り行きでした。卒業時の平成25年度に大学卒町職員の採用がなかったため、平成25年4月から町の臨時職員として働きながら採用試験の機会を待ちました。平成26年度も4月の職員採用はありませんでしたが、ようやく26年度に入ってから11月採用の試験があり、採用後の配属先は臨時職員としてなじんだ産業振興課でした。

仕事は主に農業の振興策を担当しています。広野町は、困難な課題が多い分、挑戦できる環境にあります。やりがいのある仕事をしたい人は、ぜひ応募して一緒に復興の仕事をしましょう。